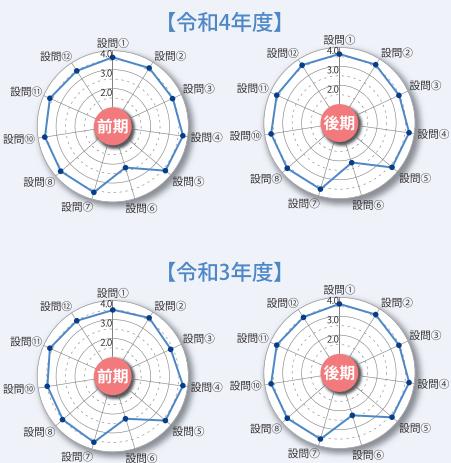


## 【令和4年度（前期・後期）授業アンケートの実施報告】 教育開発センター長 八房 智顯

**表1 アンケートの設問**

	令和4年度 前期	令和4年度 後期	令和3年度 前期	令和3年度 後期
■設問① 私は、この授業科目の目的と意義を理解できた。	3.6	3.6	3.5	3.6
■設問② 私は、この授業科目に意欲的に取り組んだ。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問③ 私は、この授業科目の到達目標を達成した。	3.5	3.5	3.4	3.5
■設問④ この授業科目は、授業計画の内容どおり進められていた。授業計画に変更があった場合に、変更点についての説明があった。	3.7	3.7	3.7	3.7
■設問⑤ この授業科目において、事前・事後学習の内容及び指示は適切だった。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問⑥ 私は、この授業科目の事前・事後学習を行った。(レポート作成時間も含む)	2.3	2.2	2.4	2.4
■設問⑦ この授業科目において、到達目標、評価種別及び評価基準について説明があった。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問⑧ この授業科目において、シラバスに記載されている能動的学習の授業手法(ミニツッペーパーなど)を実行していた。	3.6	3.6	3.5	3.6
■設問⑨ この授業科目において、適切なタイミングで理解度の確認を行っていた。	—	—	—	—
■設問⑩ この授業科目において、学生の意見に対するフィードバック(改善)等を実行していた。	3.6	3.6	3.5	3.6
■設問⑪ この授業科目において、授業を妨げる行為(私語・携帯電話等)に対し、適切に対応していた。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問⑫ 私は、総合的に、この授業科目の教え方に満足した。	3.5	3.6	3.5	3.5
■設問⑬ この授業科目において、良かった点を以下の項目から3つまで選んでください。	—	—	—	—
■設問⑭ この授業科目において、改善して欲しい点を以下の項目から3つまで選んでください。	—	—	—	—
■設問⑮ この授業科目において、授業の速度についてはどう感じましたか。	—	—	—	—
■設問⑯ この授業科目において、課題の量についてはどう感じましたか。	—	—	—	—
■設問⑰ この授業科目についての意見がありましたら記入してください。	—	—	—	—

**表2 レーダーチャート**



■補足

- アンケート回答の平均は、回答1×4、回答2×3、回答3×2、回答4×1で加重合計し、回答1～4の回答件数合計で除して平均を求めています。
- 全学平均は、全学部の総数により算出しています。

本学では学修の可視化を図るとともに学生の意見をシラバスに活用することを目的として、Webを利用した授業アンケートを実施している。

表はアンケートの設問であり、それらを以下の5つの観点にまとめて評点の平均を算出して検討した。

「学生の自己評価(設問①、②、③、⑥)」、「シラバスに基づいた授業実施に対する評価(設問④、⑤、⑦、⑧)」、「学生、教員双方向の授業実施に対する評価(設問⑨、⑩)」、「授業実施に対する評価(設問⑪、⑬、⑭、⑯)」、「学生の満足度(設問⑫)」

アンケートは合計16問と設問⑰の自由記述から構成し、設問①～⑧、⑩～⑯は4段階評価、設問⑨、⑬、⑯は3段階評価で、大きい数字を高い評価としている。なお、設問⑬、⑯は7項目の選択肢から3項目選択することになっている。また、評点については、4段階評価の項目のみ算出している。

#### ●前期(回答者数:のべ24,121人/40,021人、回答率:60.3%)

「学生の自己評価(設問①、②、③、⑥)」:3.3、「シラバスに基づいた授業実施に対する評価(設問④、⑤、⑦、⑧)」:3.6、「学生、教員双方向の授業実施に対する評価(設問⑨、⑩)」:3.6、「授業実施に対する評価(設問⑪、⑬、⑭、⑯)」:3.5、「学生の満足度(設問⑫)」:3.5

#### ●後期(回答者数:のべ20,167人/39,399人、回答率:51.2%)

「学生の自己評価(設問①、②、③、⑥)」:3.2、「シラバスに基づいた授業実施に対する評価(設問④、⑤、⑦、⑧)」:3.6、「学生、教員双方向の授業実施に対する評価(設問⑨、⑩)」:3.6、「授業実施に対する評価(設問⑪、⑬、⑭、⑯)」:3.6、「学生の満足度(設問⑫)」:3.6

R4年度の授業アンケート結果を評価するため、2018年(平成30年)～2022年(令和4年)にかけての授業アンケート結果を比較する。図1～図4には年度間比較によって特徴が明確なアンケート項目を抜粋し表示する。なお期間内に年号が変わったため、西暦での表示とする。

(図1)は設問②のアンケート結果の推移である。設問②は「該当授業に意欲的に取り組んだかどうか」に対する回答で、縦軸は回答内容ごと

の割合である。図には前期の結果のみ示しているが、後期についても傾向に大きな違いは見られなかった。コロナ感染症流行によるオンライン授業が始まった2020年以降とそれ以前で明らかな傾向の違いが見られる。2020年以降は「1:ほぼ取り組めた」の回答が明確に増えており、対面授業がメインとなった2022年においてもその傾向が続いているだけでなく、「1:」の回答は微増している。オンライン授業を準備・実施するうえで、各教員が膨大な時間と労力をかけて行った様々な試行錯誤が授業の質向上をもたらし、学生の授業受講意欲向上に寄与している可能性がある。

(図2)は設問⑮に対し、前期の結果を年度ごとに比較したものである。設問⑮は「該当授業科目で良かった点を3つ挙げる」質問に対する回答である。(図1)の設問②と同様に、本質問についても2020年以降とそれ以前で傾向の違いのある項目が見られる。2020年以降では「2:授業の資料」を挙げる回答が増え、「4:板書の仕方」「6:特になし」が減っている。オンライン授業の導入に伴い、授業資料についてもオンライン化が進んだことが理由として考えられる。各教員が様々工夫し、オンラインに対応した授業資料を作成したことがその質向上につながったと考えられる。オンラインから対面に完全移行した2022年においても同アンケート評価値は高い値を維持しているため、オンライン対応時の各種ノウハウが対面移行後も活かされていると考えられる。

(図3)および(図4)は、設問①～⑯について、最も高評価の回答割合の経年変化を一覧にしたものである。各種設問を比較しやすくするために、(各年の値-5年間の平均値) ÷ (5年間の平均値)として表示した。いずれの設問についても2020年以降に値の増加が見られ、対面に完全移行した2022年も高い値を維持している。コロナ感染症流行に伴うオンライン授業を経て、授業の質が向上した可能性がある。もっとも増加幅の大きい設問⑥は「授業の事前・事後学習」についての質問であるが、後期のアンケート結果では2020年以降にピークを付けた後漸減傾向にあり、2022年には大きく減少している。オンライン授業で得た有益な授業ノウハウを有効に活かし続けることが必要かもしれない。

